

# えんたいごう 掩体壕

松山市指定有形文化財（歴史資料）  
平成三十年五月十八日指定

掩体壕は、軍用機を敵機の攻撃から守るために造られた格納庫で、太平洋戦争末期には全国の軍用飛行場に造られていた施設である。

昭和十八（一九四三）年十月に松山海軍航空隊（北吉田町）と松山海軍航空基地（南吉田町）が完成した。その後、南吉田と垣生両地区に航空基地の飛行場付帯施設として、有蓋掩体二十三基、無蓋掩体四十基、誘導路などが造られていたことが、アメリカ軍が撮影した航空写真から確認できる※。戦後、それらのほとんどは消滅したが、南吉田地区には現時点でコンクリート造の掩体壕が三基残っている。

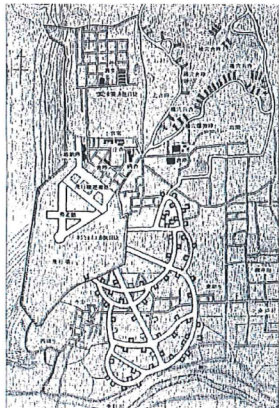
この掩体壕は、高さ約五・二メートル、幅約二十三・一メートル、奥行き約十二・二メートル。主翼格納部の前部アーチと尾翼格納部の後部アーチの大小二つの断面カマボコ型アーチを合わせた形態をしており、平面は凸型で旧海軍掩体壕としての形態を残し、屋根施設のある有蓋型に分類される。

松山海軍航空基地の歴史や悲惨な戦争を語り継ぎ、平和の尊さを伝える貴重な資料として重要である。

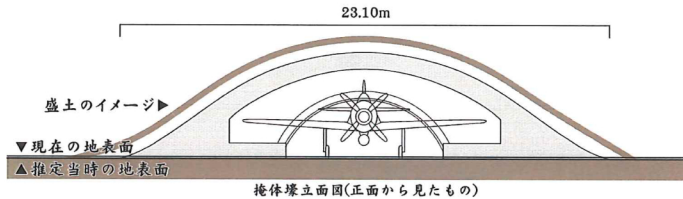
令和二年十一月 松山市教育委員会



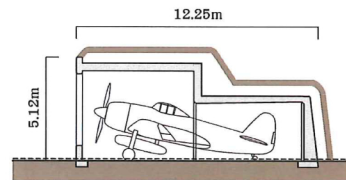
アメリカ軍が撮影した松山海軍航空基地  
(米国立公文書館蔵)



掩体壕周辺位置図(防衛研究所史料室蔵)



掩体壕立面図(正面から見たもの)



掩体壕断面図(横から見たもの)

※海軍省の記録では、中型(24)、小型(39)、分散(30)（『海軍航空基地現状表内地之部』防衛研究所資料室蔵）とあるが、数値は一致しない